

みず

No.41
道彩展機関紙

道彩展機関紙“みず”第41号
発行 北海道水彩画会
道彩会代表 小堀 清純
札幌市西区発寒5条8丁目
13-24-1101号
年1回発行

<http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai>

第44回

道彩展を終えて

2025年9月17日

9月21日

札幌市民ギャラリー

出品者増える

道彩会代表 小堀 清純

第44回道彩展は一四三点の作品が搬入され、厳選した一三三点が展示されました。入場者は連日、二百人余りとなり盛会裏に幕を閉じました。一般出品者が一〇人増え、(一七歳を含む)また道東方面からの出品があるなど嬉しいニュースもありました。多様性ある表現と具象・抽象画、大胆な画面構成等ヴァリエティに富む作品が集まり充実した展覧会となりました。最近の傾向として透明水彩、パステル、鉛筆画の出品者が徐々に増えており歓迎しております。今、公募展や美術界を取り巻く状況は厳しく、特に若者の公募展離れが見られ出品者の高齢化が進んでいます。会員会友の一人ひとりが出品者を増やす努力をして頂きたい。来年は第45回記念展を迎えますので、いい作品を描き成功させましょう。

第44回道彩展受賞者

道彩展賞

阿原 英実 (札幌)

北海道知事賞

竹本 修 (札幌)

札幌市長賞

佐藤 太一 (札幌)

札幌市教育長賞

斉藤 利朗 (札幌)

八木賞

渡部八代子 (登別)

伸子賞

村井美智代 (苫小牧)

奨励賞

植田千鶴子 (札幌)

西 孝明 (江別)

馬場 由美 (札幌)

藤枝 和政 (北斗)

吉川 まさ (北斗)

会員推荐

西方 礼子 (苫小牧)

高田登志子 (札幌)

会友推荐

阿原 英実 (札幌)

斉藤 利朗 (札幌)

野崎 和男 (札幌)

多彩な表現の供宴

詩人・美術評論家

柴橋 伴夫

全体の印象では、受賞作の意欲的絵づくり、会員のよく練られた構想作品が目立った。ただ出品数が増えたようだが小品が多くややチャレンジ精神が弱いとも感じた。

まず受賞作をみておく。道彩展賞の阿原英実「光景」はくすんだ色調で統一。そこに心の風景を反映か。中央下部の空間づくりにもう一つ工夫を。北海道知事賞の竹本修「夕映え」は船、橋、家を配しうつろいゆく光のドラマを描出。佳品である。

札幌市長賞の佐藤太一「レモンのある卓上」は花瓶、花々をより簡潔に掴んでいる。卓上の処理がやや平凡か。札幌市教育長賞・会友推荐の斉藤利朗「冬光」は卓越した構図づくりと冬の光を見事にとらえていた。八木賞の渡部八代子「積み木の部屋」は視点がユニーク。ラフな線は魅力だが色調とのバランスも必要か。伸子賞の村井美智代「紅



「光景」阿原 英実



「積み木の部屋」
渡部八代子

葉の水映」は水面の微妙な変幻を色を重ねながらよくとらえている。奨励賞の植田千鶴子「マンハッタンへのオマージュ」は摩天楼の風景の印象を正面から描いた。もう少し色彩が欲しい気がする。奨励賞の西孝明「底なしの淵」は川の流動、底の石達、木立ち、それらを実に澄んだ眼で活写している。特に中央部の光を浴びた水の表情がいい。奨励賞の馬場由美「乱れ咲く」は花瓶を単相化しつつ、白い花を華やかにみせた。バックと卓上の処理がやや甘いのが残念。奨励賞の藤枝和政「描出」は鉛筆を用いて岩石(?)を上よりリアルにみつけた。題材にはなかなかむかないものを自分のものにしていく。抑えた寒色系とフォルムがよくマッチしている。奨励賞の吉川まさ「涼しい風に吹かれて、トラピスト修道院で」は丁寧なデッサンをベースにして明るい色調でよくまとめている。会員推荐の西方礼子「夜にとけこむ」は夜の街中がゆっくり出す光のドラマを丁寧に表現。車のライトがより効果を高めている。ただ画面下部の処理がやや弱いと感じた。会



「底なしの淵」西 孝明

員推挙の高田登志子「浅き春」と会友推挙の野崎和男「あきいろ」は、それぞれ自分の色合いをつくり出そうとしている。

ここから早足になるが、私の眼に映った佳品について評しておきたい。会員では、糸塚章子「バラ色のサッポロ」はピンク

のトーンで全体をまとめあげ、あたたかい空間を造り出した。黄倉和子「森の朝」の淡いグリー

ンのトーンが新鮮だった。表谷美智子「エルムの森」は、伸びのあるストロークと色感が澆刺

としている。工藤路子「native flower」は細かな筆触で空間づ

くりをしていた。小堀清純「秋色」は曲がった野道と草むら、

そんななげない風景にいのちを与えていた。佐藤展子「共存」

は左右二分割の平面づくりに挑戦。斬新な試みだ。菅原策夫「カ

タクリの群生」はピンクを用いてカタクリの花の表情をやや幻想風に造形。林田理栄子「JAZZ」

は自在なドローイングが音を奏でていた。宮武輝久「what can you see?」は色の供宴。抽象的

みせ空間に厚みがあった。その他では迎見富美子「2025・8・22の夜明け」、寺西牙子「野の詩」、馬場結香「遊ーきょうだい」、勇内山和子「冬の海」、中島恭代「予知夢2025」、若杉博文「樹間より望む」などに私の眼と心の中に残るものがあった。

一般では本間こゆき「境界線の思考1」に注目した。難しいタイトルだが、そこに作者の想念が表出しているようだ。マチエールそのものを自立させて追い求めている点も評価できる。

道彩展も来年は45回展となる。力作、斬新な試みの作品が多く出品されることを期待したい。また八木(保次)賞(八木)伸子賞にチャレンジする作品が増えることを待ちたい。



「レモンのある卓上」佐藤 太一

受賞者の声

植田千鶴子

若い頃の憧れでしたニューヨークで働くこと。空間に夢を描きながら日々、想いを重ねてきました。ようやく訪れた街、ロックフェラーから夕暮れのマンハッタンを見下ろし街の鼓動に心が震えました。

初めての50号の作品です。



「マンハッタンへのオマージュ」植田千鶴子

3ヶ月かけて描きました。透視図法を意識し光と影の奥行きを探りました。

水彩のにじみに記憶と感情を重ねて、ビルの際間に灯る暮らし、空の色に渗む願い…。

夢は年齢を超えて今も私を導きます。

この受賞を励みにまた新たな景色を描いていきたいと思っています。

竹本 修

旅先で出会った光景を描くことが多いです。風景の中に人との繋がりを感じられるような作品を描きたいと願っています。

ベトナム戦争での破壊を奇跡的に逃れた旧都ホイアン。満月の夜には街中の照明が消され、ランタンの優しい灯りが川面を照らします。人々はボートに乗り灯籠を流し死者を弔います。



「夕映え」竹本 修

ファーストウォッシュでは、どんな光(あるいは空気)がその景色を包んでいるかを考えま

す。ウェットオンウェットの効果は、光や影の微妙な変化や水面を描くのに適した技法であり、水彩画の大きな魅力の一つだと考えています。重ね塗りに適したコットン紙を使っています。

吉川 まさ

奨励賞をありがとうございます。賞をくださった道彩会の先生方の寛大さに感謝致します。これを励みとして描いて行きます。

14年前、水彩画教室へ行き始めの頃、先生から「あなたは何を描きたいの?」の問い。

その後も他の先生から同じ言葉をかけられました。

今は日常の小さな幸せを描きたいと思っています。これからも御指導よろしくお願ひ致します。



「涼しい風に吹かれて、トラピスト修道院で」吉川 まさ

'26 行事計画

第3回みず展

2月17日(火)〜2月22日(日)

ギャラリー大通美術館

第45回記念道彩展

9月16日(水)〜21日(月・祝)

搬入：8月22日(土)

札幌市民ギャラリー

道彩会地区展 函館展 未定

来年は第45回記念道彩展のため搬入が早くなります。お間違えの無いように準備をお願いいたします。

第45回記念道彩展 作品公募

- 会期 2026年9月16日(水)〜9月21日(月・祝)
 - 会場 札幌市民ギャラリー
 - 搬入 2026年8月22日(土) 10:00〜17:00
- <http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai>

道彩展に関するお問い合わせ

▼道彩会事務局 糸塚 章子

札幌市東区本町1条6丁目7-11 (011)782-5781

▼函館地区連絡所 大山 栄子

北斗市七重浜8-21-3 090-6692-2831

▼江別地区連絡所 中島 恭代

江別市野幌若葉町46-31 (011)385-4217

編集後記

今年には初出品者も増え、来年の記念展に向けてはまずみとなる力強い展覧会となりました。令和版お米騒動や物価の高騰など色々ありますが、一緒に絵画を探求してまいりましょう。発行にあたりご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。総務会 同